

胃がん検診（胃X線検査）のご案内

ピロリ菌感染が疑われた場合紹介状を発行いたします

～令和3年度から胃X線検査の読影判定区分が変わります～

ピロリ菌感染症とは？

ピロリ菌は胃に住み着く細菌。ピロリ菌感染は胃粘膜にダメージを与え、胃炎を引き起こし、胃がんの原因となります。ピロリ菌感染を放置すると、胃粘膜萎縮が進み胃がんになるリスクが上がり危険です。早期に除菌することで胃の粘膜は正常に保たれやすく、除菌治療で胃がんになるリスクを30～40%下げることができると言われています。

なお、ピロリ菌の大きさは3～5ミクロン（1ミクロンは1mmの1/1000）です。

